



平和の大切さを
伝え広げます



赤平中央中学校
2年 中澤 優里さん

私は8月4日〜7日まで広島の『被爆65周年原水爆禁止世界大会・広島大会』に参加してきました。

1日目は、広島に着いてから『折り鶴平和行進』に参加しました。行進の途中、「暑いけど頑張つてね」とか「核兵器はもういらないぞー!」との広島市民の声が聞こえて、広島の人たちは平和を心から願っているのだと感じました。

次に『核兵器廃絶2010ヒロシマ大会』に参加しました。この大会は『原水禁広島大会』のために集まった全国の団体の気合い入れみたいなものでした。この3日間のスローガン「ノーモア・ヒロシマ!ノーモア・ナガサキ!」も発表され、これから色んなことに参加するんだなと実感しました。

2日目朝から子ども慰霊祭に参加しました。折り鶴の献納や、被爆者へのメッセージ、花を供えるなど被爆で亡くなった方がメインの大会でした。泣きながらメッセージを読む

子もいて思いが伝わってきました。その後、フィールドワークという

平和公園内の慰霊碑をめぐるツアーに参加しました。被爆した当時の様子がわかるものばかりでした。原爆ドームの前では、ダイ・イン(参加者が死んでいる事を模倣して行う抗議の形をしました。地面はとても熱く、座れもしない状態でした。

次に『メッセージ・ヒーロー』ヒロシマ2010』に参加しました。やや小学生や幼児向けで、中学生の私にはちよつと子どもっぽい企画に感じられましたが、ダンスをしたりメッセージを書いたりする楽しい企画でした。

大会最終日の3日目、色々とニュースで注目されていた『平和祈念式典』を見ました。大勢の人が集まり、原子爆弾の投下時刻には黙とうが捧げられました。広島市長の平和宣言、小学生の平和の誓い、菅総理大臣のスピーチがあり荘厳な式典でした。式典の後は『まとめ集会』に参加し、改めて平和の大切さや核兵器の恐ろしさを感じました。

最後に、平和について思ったことは戦争をしてもお互いに利点はないうということ。核兵器が落とされた国は日本だけで十分です。私はこの大会の参加者として平和の大切さを伝え広げていきたいです。

平和への願い

No More Hiroshima!!
No More Nagasaki!!

中学生からのメッセージ

～原水爆禁止世界大会・広島大会に参加して～

広島・長崎の被爆から65年—8月4日から7日まで「核兵器のない平和で公正な世界のために」をテーマに原水爆禁止2010年世界大会が開催され、赤平市から2名の中学生が参加しました。この体験を通して感じたことを感想文にまとめてもらいました。



資料館の前で

多くの人にこの
経験を伝えます



赤平中学校
2年 石井 敦也くん

僕は、8月4日から7日に、原水爆禁止世界大会が行われる広島県に赤平派遣団として行ってきました。そこで思ったこと、感じたことを書きます。

まず1日目、2日目です。ここでは、戦争の愚かさや核兵器の恐ろしさ、平和の大切さなど正直あまり実感できませんでした。しかし、2日目の平和記念資料館を見学し、被爆した物や当時の写真を見ると、だんだん恐怖感がわいてきました。そして2日目は、3日目の式典とまとめ集会に向け、夜はゆっくり休みました。

そして3日目。平和祈念式典会場へ行くと、前日までとはまったく違う空気でした。まとめ集会の会場も、変わった空気でした。海外からの参加者もいて、改めて世界大会だということを実感しました。そして色々な方のスピーチを聞いて印象に残ったのが、原稿や台本を見ずにスピーチをしている人です。普通、1人15分程度のスピーチの場合、僕たちは原稿を使って



デモ行進に参加

話しますが、その人は何も見ずに話していました。平和や核兵器についての考えがすぐに頭に浮かび、スピーチしている姿が印象に残り、勉強になりました。そして、最後の合唱「原爆を許すまじ」は被爆者の思いが詰まっているような歌詞で、自然と鳥肌が立ち、体が震えました。平和というものは、いじめや暴力のない世の中のことをいいます。日本は戦争をしなくても、そういう面で平和な世の中になつていないと思います。この経験を通して思ったことは、すべての国の人が仲良くし交流を深めることで団結力が生まれ、戦争なんてなくなることです。そしてなにより自分ができることは、65年前の8月6日と9日のでき事を一人でも多くの人に伝え、原爆の恐ろしさを知ってもらうことです。僕は、数多くの人にこの経験を伝えることを約束します。